

では、しながわ CSR 推進協議会の会員企業は、どのような課題に対して取り組みをしているのかを分析してみました。

一番多かったのは古典的に存在しない社会課題である「職業教育」で、中でも職業観や働くことは何かということに取り組みされている企業が一番多かった。それ以降「清掃活動」、「科学技術」、「福祉」、「環境保全」、「寄附」、「地域活性化」、「安全」、「防災」などと続いていきます。これらの取り組みが SDGs とどう関係しているのかを、取り組むだけではなく、ターゲットレベルで考えて何に貢献しているのかを発信しないといけない。一番多かった「職業教育」では、例えば、しながわ寺子屋やしながわ職場歩き、小中高キャリア教育などは SDGs でいうところの目標 4 の 3 に合致する。清掃活動では、目標 11 の 6 に合致するなど、個々の活動が SDGs のどのターゲットに貢献しているのかを意識して、発信していく必要がある。

分析した結果、しながわ CSR 推進協議会の会員企業の活動は、①先進国都市型の企業市民活動、地域貢献活動が中心である。②次世代育成を視野にいれた職業教育の問題意識の高さがうかがえる。③科学技術教育、AI、IoT、ロボティクス、RPA などの実施。④ユニークな芸術振興 などが特徴的ではないかと言えます。

今後のしながわ CSR 推進協議会の活動への期待としては、1 つ目は、SDGs の 17 の目標で行われていない活動の領域を実施することである。丁寧に区の問題や企業の強みを考えていくと、各社の強みで解決できる品川区特有の社会課題が発見され、対応できるかもしれない。2 つ目は、CSR の活動の取り組みの記録、要するに何をして何人集まったというアウトプットはできているが、その後、どんな効果が得られたのかというアウトカムの計測を企業間で共有できれば、今後さらなる発展につながると思う。3 つ目は、そのためにも、品川区が長期基本計画などで把握している課題のほかにも、別次元で見えてくる社会課題を見つけて、その中で優先順位をつけて活動のポイントを置くと良いと考えます。

社会課題に関しては自分のビジネスで培ったノウハウとか知恵とか知識などの力を世の中に役立てる。こういった取り組みを進めることで、より効果的な活動になり、その後、また違う分野で必要な取り組みが生まれてくるかもしれない。



● 第二部 活動事例発表会

株式会社クラダシ 代表取締役社長 関藤 竜也 氏

協議会会員による活動事例の報告では、株式会社クラダシから、日本初・最大級の社会貢献型フードシェアリングプラットフォームである KURADASHI について、紹介いただきました。

日本の食品ロスが 643 万トンと言われていて、米の総収穫高の約 800 万トンに匹敵するぐらいの量が廃棄されている。世の中で輸入されたもの、生産されたものの 3 分の 1 ぐらいが誰の口にも入らずに廃棄している。KURADASHI のサービスは、こうした、今まで廃棄していた“もったいない”というものに新しい価値をつけてマーケットに投入し、取引をしている 600 社の企業の CSR レポートなどに KURADASHI を通してどれぐらいの量が減ったのかなどを今後ますます可視化して、皆さんが協力しやすいような方向を手掛けていきたい。



参加者アンケート ※一部抜粋

- ・食品ロス問題に一早く取り組んでおり、少しでも無駄をなくす取り組みに共感をもてた。今後のさらなる活動に期待し、一消費者としても利用したいと思う。
- ・ビジネスが社会貢献活動に直結しており、新しいビジネスモデルとして興味深くお話を聞かせていただきました。
- ・食品ロスが社会的に問題になっていることは知っていたが、具体的にどんな食品ロスがあるのか、どれぐらいの量なのか知らなかったが、本発表で知ることができてよかった。